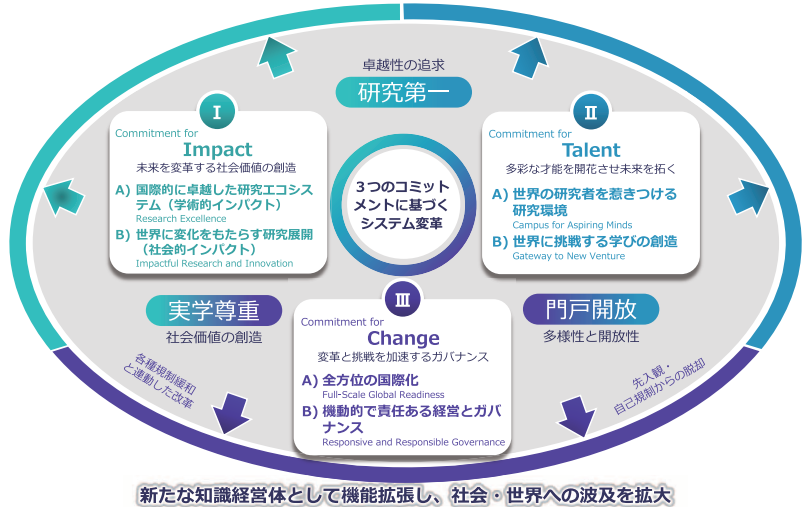


# 国際卓越研究大学 体制強化計画の全体像

平和で公正な人類社会の実現に貢献  
建学の理念を礎として知・人材・社会価値を創出



新緑の川内キャンパス（左）と青葉山キャンパス（写真=東北大学提供）



国際的に卓越した研究の展開や、経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が大きく期待される大学を国が支援する「国際卓越研究大学」に、今年10月以降、東北大学が初めて認定される見込みです。「これを契機に大学改革を先導し、変革の結節点になりたい」と語る富永悌二総長に今後の展望を伺いました。（取材文Ⅱ浜名純／撮影Ⅱ飯田タケシ）



## 東北大学 富永悌二総長

1982年東北大学医学部医学科卒業。研究分野は脳血管性障害の外科治療、脳神経科学一般。米国フィラデルフィア生体膜研究所、米国ハロ―神経学研究所留学などを経て、2000年広南病院脳神経外科部長。03年東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経科学分野教授。19年同大学副学長、病院長。新型コロナウイルス感染症対策に尽力。23年同大学理事・副学長を経て、24年4月より現職。主な受賞に「情報通信月間」総務大臣表彰、文部科学大臣表彰 科学技術賞 研究部門、日本脳神経外科学会 齋藤眞賞 学術賞、日本脳神経外科学会 佐野圭司賞など多数。

# 「国際卓越研究大学」に 東北大学が初の認定へ

## 大学改革を先導し 変革の結節点 目指す

国際卓越研究大学制度とは、「技術立国・ものづくり大国」と言われた日本の研究力の低下が危惧される中、先端的な試みを行っている大学に優先的に資金を投資することにより、世界トップレベルの大学へと進化させようというものです。財源は国が設立した10兆円規模の「大学ファンド」の運用益を用い、最長25年にわたって配分される予定です。東北大学は、2023年9月に国際卓越研究大学の認定候補に選定。24年6月の有識者会議（アドバイザリーボード）による検討の結果、認定の水準を満たし得ると文部科学省は公表しました。国立大学法人法の改正が施行される今年10月以降に必要な手続きを行ったあと、東北大学を初の「国際卓越研究大学」として認定することになっています。

東北大学では、「Commitment for Impact」未来を変革する社会価値の創造、「Commitment for Talent」多彩な才能を開花させ未来を拓く、「Commitment for Change」変革と挑戦を加速させるガバナンス」という3つのコミットメントの下、6つの目標と19の戦略を提示。基盤的研究・分野融合研究・トップレベルの研究の3階層ごとの戦略的研究支援、若手研究者の独立研究環境の全学展開、横断型学位プログラムの拡大をはじめとする大学院変革、国際



国際混住型学生寄宿舎のユニバーシティハウス青葉山（写真=東北大学提供）

富永悌二総長は、「低迷している我が国の研究力を回復させるには、大学が社会と積極的な関わりをもつて社会と共創し、新たなイノベーションと価値を創造することが重要です。東北大学は、これを契機に大学改革を先導し、変革の結節点になりたい」と語ります。

## 大学全体の研究力アップと 研究に重きを置く医師を養成

目標・戦略の具体例として、教員の「フレッド型組織」「講座制」から離れ、教授、准教授、助教それぞれが研究室主宰者として「研究ユニット」を率いる独立型に転換する計画を打ち出しています。これにより、現在の全学830研究室が1800ユニットになり、研究支援や産学連携の専門職スタッフを11000人増やすことにより、これを支えるとしています。こうして若手や中堅の研究者が自由に研究し、挑戦する環

境を整えるとともに、大学そのもののシステムやガバナンスを改革していくことを目指しています。

また、産官学金の連携でキャンパスのイノベーションを進めています。その象徴が青葉山新キャンパスです。社会価値創造を行う共創の場「サイエンスパーク」の整備を進めており、今年4月には、サイエンスパークの一端にナノスケールの世界を見ることが出来る巨大顕微鏡、3 GeV 高輝度放射光施設「Tango Terasu（ナノテラス）」の運用を開始しました。さらに、半導体、スピントロニクスの研究推進や、被災者の健康状態などを調査する「東北メディカル・メガバンク機構」の充実などを図ります。また、国立大学では初めてとなる民間との共同出資による子会社を通じた社会インパクトの創出を図ることや、グローバル教育に関連して、徹底した国際共修環

境に浸る「ゲートウェイカレッジ」を2027年を目途に開設することを計画しています。

さらに富永総長は、6月の有識者会議の発表を受けた記者会見で、物理や生物などの自然科学の分野だけでなく、人文・社会科学も含めた大学全体の研究力を向上させていくこと、医療提供体制を維持した上で、研究に軸足を置く医師を増やす仕組みを作る計画について、新たに公表しました。

「国際卓越研究大学として東北大学が目指すのは、個別の研究振興ではなく、大学が世界と伍して成長軌道を描くための『システム改革』に主眼があります。日本にとってラストチャンスとも言えるのが今回の大学改革です。教職員、学生のすべての人たちが『共感』をもって、改革に邁進していきます」と、富永総長は決意を語っています。